

オナガの襲撃



私が育てたカラスのちゃん

VII

石下郁子

目 次

- 1 公園には人がいて (3 2) 2
- 2、公園には人がいて (2) (3 3) 3
- 3、3羽のオナガ子ガラスを襲う (3 4) 4
- 4、仲間がオナガに襲われて (3 5) 5
- 5、私を怖がるカーちゃん (3 6) 6
- 6、もう私の手に乗ることも (3 7) 7

公園には人がいて

8月23日（火）

5時ごろ公園に行くと、ベンチに子ども用の水筒が置いてあって、学童保育の子どもたち十数人と指導員の人々がドッチボールをしていました。

学童保育施設と公園は隣接しており、昨日カラスにパンを上げながら、これがもし日常化するようだと問題になる、と自分自身でも感じていました。学童保育の人たちは中からその様子を見ていたのだと思います。

それでそんなことになっては大変だと思い、公園で子供たちを遊ばせることにしたのだと思います。

残念でしたが無理もないことだと思いました。

カーちゃんは私を見つけて飛んできましたが、子どもたちがいるので民家の屋根の上に行ってしまった。

私に来るから公園の周りにいて近づけず、私の姿を見て自分があるのを知らせに来た、という感じでした。

近づいて行くとそばに来たので餌をあげましたが落ちつかない様子です。

今まで一緒にいたものか、民家の屋根の上には別のカラスもいてこちらを見ていましたが、私が注意を向けるとどこかに飛んで行ってしまいました。

見張りガラスは警戒心が強く、声をかけたりすると例外なくどこかへ行ってしまおうのですが、この時は私がそちらを見ただけでいなくなってしまうました。まもなくカーちゃんも飛んで行ってしまいました。

あたりは明るく、子どもたちはまだ遊んでいます。

この日は、以前病院で会った、野良猫の面倒を見ているという人に、差し上げたいものがあって会うことになっていました。仕事が終わって来られるのが6時ごろだというのでその時間に公民館に行くことになっていました。それで5時半ごろ公園を後にしました。

公園を出るとどこにいたものか、カーちゃんの別のきょうだいらしいカラスが数羽、私のあとを追ってきましたが、家の近くまで来て姿を消しました。

8月24日（水）

この日も公園には学童の子ども達が遊んでいました。

カーちゃんは電線に止まって、公園のずっと手前で信号待ちをしている私を見つけて飛んできました。

人慣れて肩に止まったり、頭に乗ったりしているカラスを、通過する車の中から驚いて見る人がいます。

信号が変わり、カーちゃんを自転車の荷台のふちに止まらせいつもの公園を通り越して、別の公園に行きました。

そこでスイカの皮、肉、パン、卵焼きなどをあげました。

カーちゃんは肉をいっぱい口に詰め込み少し離れた場所に持って行き、隠すようなしぐさをします。これはカーちゃんが焔を追われ、それまでよりも仲間と接触を多く持つようになった頃から見られるようになった行動です。

こうしてカーちゃんはだんだんにいろいろなことを覚えていくのだな、と思いました。

おなかがいっぱいになったカーちゃんは周りで少し遊んでいましたが、すぐそばに蟬の死骸があるのに気が付きました。それを不思議そうに見ています。私ははっとしました。

前にも書きましたが、カーちゃんは少しは私の表情を読むのです。それでじっとしていました。

私は蟬を少し離れた植込みの中に持って行きました。

私はこの時、人が虎になって旅人を襲う、という話が頭をかすめ、何とも言えない気持ちになったのでした。

これから仲間と一緒に生きていくカーちゃんは人々に気味悪がられながら、今は想像もつかないような生き方をしていくのだと思ったのでした。そしてそれはもう始まっているのだと思ったのでした。

4, 5人の家族連れらしい人が犬を連れて歩いてきたので、私はそこを離れました。

カーちゃんは少しの間、民家の屋根から屋根を飛び移ってきていましたがやがてどこかに飛んでいきました。

帰りがけにいつもの公園に顔見知りの人がいたので立ち寄ると、「さっきカーちゃんを自転車に乗せてヒューって、向こうへ行ったでしょう」、と言われました。

すごくびっくりした、と言われて、そういえばカーちゃんは他の人がいるときは私にもあまり近づいて来なかったな、と改めて思ったのでした。、

公園には人がいて（２）

８月２５日（木）

この日も公園には学童の子どもたちが遊んでいました。

夕方、涼しくなった時間帯に公園でくつろぐ人もあり、ベンチには大人の姿も見えます。

人が大勢いる中にカーちゃんが飛んでくるとは思えなかったのですが、その辺を歩いてみようと思っていると、近くに住む年配の男性の方が、「カーちゃん来ないね」と声をかけてくれました。

「ええ、人がいると怖がってきませんね」と答えました。

公園の道路を挟んだ南側に、木や草花が植えられた緑地帯があります。

そこに立っていると、北の方角からカラスが一直線に飛んでくるのが見えました。カーちゃんでした。

翼を広げて大きなカラスと思えたのにカーちゃんだったこと、違う場所においても即座に私を見つけて飛んで来てくれたことに目頭が熱くなりました。

広げた羽がボロボロで、左右対称でなかったのも切ないことでした。

そばに来て、カーちゃんは卵焼きを食べました。

隣町の住宅地から国道下のガードをくぐって県道への抜け道になっている道路は、車が頻繁に通るため到着せず、そのたびに木の枝に飛び移って逃げていました。

何台か目の車が通過したとき、カーちゃんはとうとう近くの民家の屋根、電柱へと移動し、大型電器店近くの電柱へと飛んで行ってしまいました。

このとき電器店の屋上にはたくさんの数のカラスがいました。

カーちゃんは屋上にはいきませんでした。近くの電柱に止まって羽づくろいをしていました。周りには別のカラスがいましたが、カーちゃんの家族だったかは離れていたのだから分かりません。少し目を放したすきに、屋上のカラスはそのままでしたが、カーちゃんと周りにいたカラスはいなくなっていました。

８月２６日

この日は一日中雨で、公園には行きませんでした。

８月２７日（土）

天候は回復していましたが、カーちゃんもその家族も公園に姿を見せませんでした。

８月２８日

夕方いつもの時間より少し早く家を出ました。

カーちゃんは公園の手前、大型電器店の交差点のところにて私を見つけて飛んできました。親ガラス、きょうだいガラスも遠巻きながらいます。一緒に行動をしているのだと感じ、少しほっとしました。

一羽だけにあげるのはいかがかと思いながら、餌をねだるので食べさせました。

カーちゃんは自分で少し食べると、口にくわえた餌をどこかに持って行きました。

信号が変わったので渡ると、カーちゃんはなんでおいていくとでもいうふうに、大声で鳴きながらあとを追いかけてきました。そして私の自転車に追いつきそのまま後のかごに飛び乗り公園まで行きました。

日曜で公園に学童の子どもたちの姿はありません。そこでまた少し餌を食べました。

カーちゃん家族も少し移動して公園の周りに来ましたが、一定の距離を保って近くには来ません。

カーちゃんはどうもその方が気になるようで落ち着けなくしていましたが、何を思ったか仲間のないビデオショップ前の電線まで飛んで行き、そのままどこかに行ってしまいました。

カーちゃんのこの行動には首をかしげてしまいました。

自由気ままにどこにでも行ってしまい、家族を振り回しているという感じです。

その思いを強くしたのは、この後畑に行くと、先回りした子ガラス4羽が近くの電線に並んでとまっているのを見たからです。カーちゃんはいませんでした。

カラス一家はカーちゃんの行方を見失い、親組、きょうだい組に分かれて捜しているのではないかと思いました。そして今頃は我が家の方に親ガラスが行っているのではないかと気の毒に思ったのです。

3羽のオナガ子ガラスを襲う

8月29日（月）

夕方、電器店の屋上にこれまでたくさん集まっていたカラスの数が少ないことに気が付きました。この日、カーちゃんもカーちゃんの家族も公園に来ませんでした。

8月30日（火）

これまで早朝、太陽が昇るずっと前の、まだ薄暗い時刻に、北の方角から鳴きながら飛んできたカラスが、大型電器店の屋上で、羽を休めている様子を度々見てきていました。

早朝は長い時間は屋上にとどまらず、すぐにどこかに飛び立ってしまうので、夕方のようにたくさん数を一度に見ることはないのですが、それでもたくさんのカラスが、そこを中継点にして飛び立って行きました。

前日の夕方、カラスの数が極端に少なくなっていたことが気になって、この日の朝、気を付けて電器店の屋上を見てみました。カラスは電器店の屋上に姿を見せませんでした。

夕方もいつもの時間に見てみましたがそこにはやはり1羽のカラスもいませんでした。カーちゃんも、カーちゃんの家族も来ませんでした。

台風が接近し天候が崩れそうだというメモがあります。そのためかどうか、周辺には小鳥の鳴き声もありません。

8月31日（水）

台風がどこかに去ったらしく、朝からよく晴れ渡っていました。

10時ごろその後の様子を聞きに、鳥獣保護委員さんが見えましたが、ちょうど私が表に出られない状況の時失礼してしまいました。

「ご報告しなければと思っていましたが」とだけ家の中で言ってご挨拶しました。

失礼してしまったのが気になり午後、報告の手紙を書いて県庁舎まで持って行き、保護委員さんに渡してくださいと担当の方に頼みました。

その方は、カラスのことでお隣の奥さんから第一報を受けた方で、私が名乗ると「カラスはその後来ませんか」と尋ねられました。

「家の近くには来ません」と答えると「それはよかったですね」と言われました。

以前電話で話したときこの方には「カラスはどこか遠くにおいてこないとまた来てしまう」と注意されていたので、公園でカラスに餌をやっている私の行為を知ったら問題にされてしまったでしょう。

保護委員さんへの手紙には『カラスは間もなく群に帰ると思われまますので、もうしばらく時間を下さい』と書き、封をせず、その方に託しました。

強い日差しが午後になって幾分和らいだので、自転車に乗って出かけていました。

帯状疱疹のしみが顔面に残りそうで、紫外線に気を付けるよう言われていましたが、自転車に乗って行ったのはどこかでカーちゃんを見かけるかもしれないと思ったからです。

以前農協の近くを車で走っていたとき、カーちゃんそっくりなカラスが電線に止まっているのを見ましたが、後続の車のために停止できず、見失ってしまったことがありました。

それで日射しがないときはできるだけ自転車に乗るようにしていました。

郵便局（本局）、スーパーなどで用事を済ませました。

家の近くの新聞販売店のところまで帰って来たとき、電線の上で子どものカラスが3羽のオナガに攻撃されているのを見ました。

はっとして思わず自転車から下りました。カーちゃんかと思いました。

カラスは2羽と1羽のオナガに挟まれ、執拗な攻撃を受けています。オナガは子どものカラスよりもずっと小さいのですが、3羽が代わる代わるカラスに一撃をくわえているのです。

子どものカラスはそのたびに何とか身をかまし、致命的にはなりません、オナガは攻撃を止めません。

電線から電線へと逃げるカラスの羽は正常で、カーちゃんではないとすぐに分かりましたが、この辺にいる子どものカラスはカーちゃんのきょうだいだけです。

1羽でいるところを見るときょうだいのうちの見張りガラスだと思いました。

見張りガラスは、カーちゃんを捜すためか1羽だけでよく家のそばに来るのです。警戒心が強いのか、私が声をかけると必ず飛んで行ってしまいました。

私は自転車を止め、カーちゃんでないカラスに「カーちゃん、カーちゃん」と声をかけながら、少し後を追ってみました。カラスははだんだんに国道の方に移動して行きました。そのカラスを代わる代わる攻撃しているオナガ。

もっと追いかけてやりましたが、荷物を積んだ自転車をそのままにできず、家に置きに行くことにしました。家がすぐそこだったからです。

家の前まで来ると、公園近くに住んでいつも声をかけて下さる方が「カーちゃん、さっきからずっと待っているよ」と伝えに来ました。

私はオナガのことを話し「カーちゃんはもう来ないと思っていました。悲しいので公園に行くの、今日はやめようと思っていました」と言いました。

襲われているカラスのことも心配でしたが「さっきからずっと待っているよ」と再度言われて、公園に行くことにしました。

荷物をしまい、カーちゃんの餌を持って公園に向かいました。私はふと気付いたのです。

電線の上と下とはどうにもならない。それよりもカーちゃんでないカラスは、国道の方に逃げて行ったと。

そこは大型電器店から状況がよく見渡せる場所で、夕方の時刻の今、いつものように電器店にカラスが集まっているとすれば、きっと仲間を救いに来るだろうと。

それでも昨日、カラスが電器店に来なかったことが心配でしたが、近くまで来ると天気の良いこの日は、いつものようにたくさんのカラスが屋上に集まっていました。

それを見て、あのカラスはきっと仲間のカラスに助けられるに違いないと思いました。

この日公園で、カーちゃんはいつも通りでした。

新学期間近のためか、学童保育の子どもたちが公園で遊んでいなかったのも、自転車に飛び乗

り餌をねだってきました。バターロールを食べていましたが、人が来たためどこかに飛んで行ってしまいました。

公園の周りでカーちゃんの鳴いているらしい声だけが聞こえ、姿が見えません。

周辺を見渡すと別のカラスが遠くにいましたが、カーちゃんはどこかに行ってしまったらしく、この日はもう公園に戻って来ませんでした。

仲間がオナガに襲われて

9月1日

前日オナガに襲われていたカラスのことが気になって、この日、その周辺を歩いてみました。

あの時カラスはわずかの移動しかできなかったのも、もし助からなかったとしたら近くに何らかの痕跡が残っているだろうと思ったのです。あの子どものカラスが自力で逃げることができたとは考えられませんでした。

私が目にしたときはすでに限界に近い状態で、それからなおも容赦なく攻撃を受けていたからです。

カラスが逃げて行った方角が、夕方になると大勢の仲間が集まる電器店の屋上から見通せる場所だったことに、私は期待を持っていました。

昨日追跡を止めた場所まで行って見ると、国道の向こうに伸びた電線の上にオナガが2羽止まっているのが見えました。

2羽、昨日は3羽だったのに。昨日のオナガなのかと思いました。それにしても数が一羽足りません。オナガは何の動きもせず朝日を受けて、美しい姿を見せていました。

そのあとも注意深く周辺を見て歩きました。

カラスがどこまで逃げて行ったかはわかりませんが、歩いてみた範囲にはカラスの羽のようなものは落ちていませんでした。それで私はあのカラスはきっと仲間に助けられたのだと思いました。

夕方いつもより少し早い時間に畑からの帰り、公園のそばを通りました。

ビデオショップの前の電柱でカーちゃんが鳴いていました。いつも私が来る方角を見ている。

少し離れた電線にもう一羽、別のカラスがいます。畑の帰りで反対の方角から来たので、気付くかと思い下から声をかけてみました。

その時ちょうど散歩中の近所の人が出て、その後のカーちゃんのことを聞かれたので答えていると、カーちゃんは私に気づいたようでしたが、そばに人がいるので近寄ってきません。

それでも少し離れた場所にパンをおいてやるとほんの少し食べました。そばに人がいるためか落ち着かない様子ですぐに地面から飛び立ちました。

その人が「自分がいるとカーちゃん来ないから」と言って立ち去った後、公園の方に誘導しようとしたのですが、カーちゃんは近くまでは来るものの、電線に止まった仲間の方を気にして、いつものようにそばに降りて来ません。

私も餌をあげようといういろいろ試みてみましたが、なぜか近づいたり戻ったりを繰り返すだけです。

カーちゃんは何かを怖がるようにおどおどとしています。この時間が思いのほか長く続きました。

そのうちに辺りが暗くなり、天候が崩れそうな気配がしてきました。

最初静かにしていた仲間のカラスが、カーちゃんをせかすかのように低い声で何度か鳴きました。

そんな中でカーちゃんは迷いに迷って、どうしようか決めかねている様子です。

餌はほとんどあげられませんでした。私はこれ以上カーちゃんをとどめるのはよくないと思い、そばを離れることにしました。

私が自転車をこぎ出すとカーちゃんは連呼するように鳴いていましたが、やがて仲間の方に飛んで行きました。

直後に天候が崩れました。

仲間のカラスはそれを心配してカーちゃんをせかせていたのだと思いました。

すぐ近くにねぐらがあったにしても、そこにたどり着くまでにはきっと濡れてしまっただろうと思うほどの、直後の大雨でした。（カーちゃんにも仲間のカラスにもかわいそうなことをした）と心が痛んだものです。

はっきりとは気づきませんでした。この時もうカーちゃんは変わっていたのです。用心深く臆病になっていました。

前日、カーちゃんのきょうだいらしいカラスがオナガに襲われたことから、その恐ろしさをカーちゃんは仲間から教え込まれたのだと思います。

カーちゃん自身はこれまで何度も怖い思いはしてきていました。

でも今まではただそこから逃げてきただけで、本当の怖さというものを誰からも教えられていませんでした。

カーちゃんはこの時、身の回りにはいくつもの危険があることを、そしてそれから身を守らなければならないことを自覚するようになったのです。仲間から教えられたのだと思います。

まだ家にいたとき、激しい雨に打たれてもそれから身を守ることも知らなかったカーちゃん。猫に飛びかかれても何かに襲われて傷を作っても、いっこうに変わる様子がありませんでした。

それもこれも危険というものを学ぶ機会がなかったためでした。

これを境にカーちゃんは周囲に対して、今までよりも強い警戒心を持つようになったのです。

私を怖がるカーちゃん

9月2日（金）

この日も夕方から天候が崩れるという予報が出ていたため、3時ごろ公園に行ってみました。学校が始まり公園に子どもたちはいませんでしたが、植栽の手入れをしている数人の人たちの姿がありました。

私はこれではカーちゃんが近づいて来ないと思い、公園の南側の少し樹木の茂った方に移動しました。

自転車を止めるとすぐ、私を見つけたらしいカーちゃんは、いつもカラスが集まる電器店の方角から、鳴きながら一直線に飛んできました。そしてそばに茂った桜の木の枝に止まりました。

でも様子がいつもと違います。木の上で鳴いているだけで、いっこうに下に下りて来ないのです。

持ってきた卵焼き、肉をカーちゃんが止まっている木の近くに持って行きました。すると逃げます。

明らかに私を恐れている様子。

前日にも増したカーちゃんの変化に驚きましたが、どうしても食べさせたかったのでその場から少し離れました。

カーちゃんは餌を取りに来ようかどうかを迷っている様子です。そして木の上でしきりに鳴き声を上げます。

周囲からずっと低い位置にある公園の周辺には、大小の道路が走っています。

南側の道路の南面は見上げるほどの土手になっていて、草花や低木が道路に面して植えられ、上にいくにしたがって丈の高い木々、桜などが茂っています。

落ち着いたよい場所ですが、いつもながら狭い幅の道路を時々車が通りぬけます。

カーちゃんはこの車の音におびえました。そして近づいたり離れたりを繰り返していました。

ガア、ガアという数羽のカラスの鳴き声、そして飛び交う姿を見ました。

「お肉を持って行って仲間に食べさせて」と心の中で願いました。息詰まる思いがしました。

この日、カーちゃんはとうとう下に下りて来ませんでした。鳴きながら途中まで下りてきてはまた木の上に戻り、を繰り返していました。そして東側からカーちゃんを見ていた私が、木漏れ日の間から強く差し込む西日を受けて手持ちの日傘を広げたとき、その音に驚いたのかするどい鳴き声を上げ、どこかに飛んで行ってしまったのです。

子どものカラスが3羽のオナガに襲われた日から2日目のこの日、他のカラス達にも明らかな変化がありました。

夕方になると、電器店の屋上に集まって来ていたカラスが、この日は全く姿を見せなかったのです。

今は晴れていても、天候が崩れるという気配を感じてか、とこの時は思いました。

もう私の手に乗ることも

9月4日

カーちゃんのきょうだいらしいカラスがオナガに襲われた日から3日目の、9月3日の記録はなぜか手元に残っていません。

畑に連れて行った時から1日も欠かさず書いていたつもりでしたが、その日は公園に行かなかったのか、雨が降っていたのか。そう思い過去の天気を調べてみましたが曇り日のようでした。きっと辛くなるからと公園に行く気持になれなかったのだと思います。

翌4日の夕方、ベランダから電器店の屋上を見るとカラスが1羽だけで見えました。

カーちゃんだと思い、急いで卵焼きとパンを持って自転車で出かけました。

近くまで行くとそこに近所の人が出て声をかけられ、その人と少し話をしていましたが、私を見つけたカーちゃんはそばの電柱まで来て鳴いています。

その人がいなくなっても電柱に止まったままで、以前のように私のところに下りて来ません。

それでよく見える場所に食べ物を置きすぐにその場を離れると、おどおどしながら卵を食べ、また電柱の上に戻りました。

人通りがあったので公園の近くまで行こうと自転車を走らせると、大声で鳴きながら荷台に飛び乗って来ました。私はそのまま青になった信号を公園側まで渡りました。

振り返ると別のカラス1羽がさっきカーちゃんがいたところに止まってこちらを見えています。一方、荷台に飛び乗ったカーちゃんは、私が自転車を止めると中に入っていたパンを食べようとしていましたが、ビニールに入っているのでもう美味しくありません。私がパンを出そうと手を伸ばすと、カーちゃんは驚いて逃げました。これも初めてのことでした。

飛びのいた後、少し離れてまた大きな声で鳴いています。

カーちゃんはもう私の手に乗ることも、肩や頭に止まることもしなくなったのです。そして仲間の方に飛んで行きましたが、そこからも離れて1羽だけで北の方に飛んで行ってしまいました。

仲間のカラスはカーちゃんの行った方角を見していました。

私はあきらめ、せめて仲間のカラスが食べてくれればと思い、少し高いところにパンを置いて家に帰ってきました。

しばらくして行ってみるとパンはそのままで仲間もいなくなっていました。近くの電器店の屋上に、カラスが数羽だけ止まっているの見えました。

みんないなくなって、あれはカーちゃんの家族だったのだと、後になって思いました。

オナガの襲撃Ⅶ カラスの赤ちゃんシリーズⅦ

<http://p.booklog.jp/book/76183>

著者：石下郁子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/thmo2535/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/76183>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/76183>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ